

＜株式会社エフエム東京 第 497 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和 5 年 4 月 4 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室／リモート併用開催
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

ロバート キャンベル 委員長	佐々木 俊尚 委員
山口 真由 委員	柴崎 友香 委員

◇欠席委員（2 名）

秋 元 康 委員	松 田 紀 子 委員
----------	------------

◇社側出席者（7 名）

唐島 夏生	代表取締役会長
黒坂 修	代表取締役社長
小川 聡	取締役
内藤 博志	執行役員編成制作局長
延江 浩	編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮野 潤一	編成制作局次長 兼 編成部長
若杉 健太	編成制作局制作部長

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 39 分）
特別番組『清水哲男を偲んで～父の名は詩人』
2023 年 3 月 25 日（日）6：00～7：00 放送のダイジェスト

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2023 年 2 月度 聴取率調査結果

ビデオリサーチ 2023 年 2 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果を報告します（調査期間：2023 年 2 月 13 日～19 日）。今回も 6:00～24:00 の週平均におきまして、TOKYO FM はコアターゲット【男女 18～49 才】区分で在京首位、また【男女 12～59 才】と【男女 12～69 才】区分においても在京首位（※いずれもニッポン放送と同率首位）を獲得することができました。

- ◎【男女 18～49 才】首位 7 期連続
- ◎【男女 12～59 才】首位 7 期連続
- ◎【男女 12～69 才】首位 6 期連続

今回 2 月度の聴取率結果で、当社コアターゲット【男女 18～49 才】と【男女 12～59 才】区分は昨年 2022 年 2 月以降の 7 期連続首位、さらに個人全体区分の【男女 12～69 才】では 2022 年 4 月以降の 6 期連続首位となり、今回の結果をもって、2022 年度を通じて計 6 回調査（2022 年 4 月度～2023 年 2 月度）すべて首位を獲得することができました。

今回も平日ワイド番組が好調で、「ONE MORNING」（6:00～9:00）、「住吉美紀の Blue Ocean」（9:00～11:00）といった午前帯で特にコアターゲット層を中心にスコアが上昇、さらに夕方「Skyrocket Company」（17:00～20:00）が 10 代～60 代まですべての年代区分で同時間帯首位を独占し、今年 4 月に番組 10 周年を迎える節目のタイミングで弾みのつく結果となりました。

今期は「同率首位」ではなく、「単独首位」を獲ることを目標とし、各番組の内容と選曲ブラッシュアップ、さらに新規リスナー獲得に向けて、番宣ショート動画の制作配信にも注力してまいります。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○聴取率は大変良いお知らせだ。

○TBS ラジオを聴いていたような旧来の層が減って、アイドルやタレント、お笑い芸人のファンなどのコア層が増えてきているという、ラジオの現状があると思う。ラジオが今後どういう風に進んでいくのか、というのにとっても興味がある。少し前に読んだインタビュー記事で、集英社がやっているウェブ版の少年ジャンプ「ジャンプ+」の編集長がこれからのエンタメについて語っているのが非常に面白かった。Netflix 全話一気配信をやっている。シーズン 1、全 10 話だったら、地上波のドラマであれば 1 話ずつ毎週放送して、最終回まで見てようやく全部見られるけれど、Netflix なら好きなタイミングで全部見られる。好きな人にとっては都合なのだけれど、実はみんなで盛り上がることはできない。分かりやすい例だと、「天空の城ラピュタ」が金曜ロードショーで放送されるとみんな SNS に「バルス」と投稿してトレンドに上がるほどお祭り騒ぎになる。そういう盛り上がり、リアルタイム性やライブ感はエンタメにとっては必要なんじゃないかという話。今、ラジオにはタイムフリーや AuDee、ポッドキャストなどアーカイブに向かっている流れもある。でも実はラジオのリアルタイム性というのは結構重要なのではないかと、その記事を見て考えた。何かの参考になれば。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

特別番組『清水哲男を偲んで～父の名は詩人』

2023 年 3 月 25 日（日）6 : 00～7 : 00 放送のダイジェスト

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、3月25日（日）に放送した特別番組『清水哲男を偲んで～父の名は詩人』のダイジェストです。

この番組は、2022年3月に84歳で亡くなった詩人・清水哲男氏を偲ぶ追悼特番です。「詩人を父に持つってどういうことなのだろう。」清水哲男氏の娘・清水あかね氏が、父の実像を求めて過ごした1年を追った番組です。

パーソナリティをつとめるイラストレーターの清水あかね氏は、父・清水哲男氏のことを、亡くなった後になって何も知らなかったと実感します。清水あかね氏と清水哲男氏との思い出の場所・井之頭自然文化園を歩き、かつての記憶に想いを馳せ、また清水あかね氏が知らなかった当時の父のこと…当時、詩人がパーソナリティをつとめることは画期的だったラジオ番組「FM モーニング東京」の音源を聴き、収められた8ミリフィルムの映像を見つめ、書き記した詩やエッセイを読み、さらに、生前に深い親交のあった詩人・ねじめ正一を訪ね、父の足跡を辿り、知らなかった父の人生に触れていきます。

番組では、今年3月15日に都内で開催された「清水哲男さんを偲ぶ会」に集った、鳥越俊太郎や朝日新聞元記者、「FM モーニング東京」チーフディレクターからの清水哲男氏を偲ぶコメントもオンエア。清水哲男氏が旅立ってからちょうど1年という節目に、番組を通じ改めて偲びました。

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○興味深く拝聴した。娘の父に対する想いに、共感する部分もあった。父の没後、巨大な空洞があって、どんな存在だったのかを知るために追い求めていくプロセス、家族のビデオなど思い出の品が出てくるが、家族っぽくあって、家族じゃないような感覚もあって。その中で、ねじめ正一氏のインタビューがとても良かった。ねじめ正一氏は詩人だから、清水哲男氏のことをよく理解しているが、視点がとても温かい。清水氏の人間味のような部分を伝え、それを聞いたあかね氏が喜んでいて共感に繋がったと思う。ただ、この家族はとても特殊で、一般的な娘が父を追い求めるのとは決定的に違う、詩人の宿命というかタイトルの「父の名は詩人」に、娘のある種の諦めのようなものを感じた。それは、一般の方に父と娘の普遍的な関係値としての共感を求めるのは難しいだろう。あるひとつの物語として聴くには楽しかった。

○詩の朗読を聴くのは楽しかったが、どうしても音では理解できない言葉があった。テキスト情報などのフォローがあるといい。

○大変良い番組で、昭和のドキュメンタリーを聴いているような気分になった。内容からは逸れるけれど、声と喋り方に注目した。清水哲男氏は「FM モーニング東京」を 1979 年から 12 年間担当されていて、よく覚えているが、今改めてこの番組の中で、聴くと、喋り方が古いということに気付かされる。今の日本人とは全く喋り方が違う。わずか 30 年～40 年くらいでこんなにも日本人の喋り方は変わってしまったのかという驚きがある。同じように、昔のドキュメンタリー映像で、街の人の声が、みんなすごく早口で甲高い。番組の中で清水哲男氏が詩を朗読していたが、それがすごくいい。朗読はラジオの喋りとはまた違う。それは多分、独特の摩擦感だからだと思う。以前にある翻訳家の朗読を聞きに行ったことがあるが、ガラガラしたダミ声の特徴の方で。朗読会というアナウンサーのような流暢な喋り方の人を想像するけれど、ダミ声のようなフックがあると、思わず耳をそばだててしまう。清水哲男氏の過去の音声にそれに近いものを感じたし、そういう摩擦の力を感じるような番組をもっと聴いてみたいと思った。

○大変興味深く拝聴した。外で録音されていることで、井の頭公園の音や、鳥の声だったり風の音、父との思い出の場所で話されていることでその空気がとても伝わってきた。

○詩の言葉は、また最近若い世代にも注目されているということもあるように、現代は言葉が早く流れてしまうが、詩の言葉は 1 つ 1 つ心に引っかかるように残っていくものだと思う。特に、ねじめ正一氏の解説が分かりやすかった。詩の言葉

としての解説も良いし、それがねじめ氏の人生にとってどういう深い影響を与えて、自分がどう詩人として、また、1 人の人間としての人生に結びついてきたのかが伝わってきた。

○様々な方にインタビューをしていて、それがあかね氏にとって自分の知らない父親の側面を伝えるというのはとても良かった。同時に清水哲男氏の当時のリスナーがどう聴いていたのか、ということも聴けると良かったのかなと思う。ラジオは本当に生活に結びついているので、当時それを聴いていた人が、その暮らしの中で、どういう風に清水哲男氏の言葉を聴いていたのだろうということも聴いてみたかった。

○詩は清水哲男氏の声で朗読されているのと、俳優が少し演出を入れて朗読しているのとで、いろいろな言葉の響きで聴こえてきて、複層的に表現されていて印象に残った。

○番組の構成が複層的でよく練られていた。途中で布石として打たれたものが後に回収されて、優れたストーリーを読むような感覚だった。

■貴重なご意見ありがとうございました。詩人の生涯なので、制作において非常に苦労を重ねた。暗中模索というか。あかね氏の言葉で、TOKYO FM のアーカイブが浮き上がってきたということもあった。今回、このような形でお聴きいただけで良かった。

○当時の音源はどうしたのか。

■弊社の OB の局アナが持っていた。番組以外にも埋もれていたものがたくさんあり、これを機に整理ができてよかった。

○大変貴重な音源を聴くことができた。今後とも期待している。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「ドライバーズインフォ」

4月29日(土) 5:55~6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>